

平成 30 年度 新潟広域都市圏ビジョン懇談会 議事概要

- 日 時：平成31年2月13日（水）午前11時から午前12時10分まで
- 会 場：新潟市役所本館6階 第3委員会室
- 出席委員：北山晃也委員、斎藤敏之委員、宍戸邦久委員、関谷政友委員、中山正子委員、樋口英樹委員、山賀昌子委員、横尾良輝委員（金子春子委員、高井和江委員、本多満喜子委員は欠席）
- 事務局：福田統括政策監、小泉政策監
- 傍聴者：1名

【概要】

○ 挨拶

福田統括政策監

- ・ この新潟広域都市圏の取組は、圏域全体の活性化と行政サービスの効率的な提供を目指すもので、昨年度からスタートして2年目になる。
- ・ 本日は、取組の進捗状況について報告するとともに、来年度からの新規・拡充事業について説明する予定。
- ・ また、参考資料として配布しているが、連携中枢都市圏、圏域を法律に位置付けようという動きについても併せて説明する。
- ・ 時間も限られているが、皆さんからの忌憚のないご意見をお願いしたい。

○ 議題

議題（1）平成 30 年度取組状況について ア．スケジュールについて

小泉政策監

（【資料1】説明）

- ・ 質問等なし

議題（1）平成 30 年度取組状況について イ．連携事業の進捗状況（見込）について

小泉政策監

（【資料2-1、2-2】説明）

（意見・質問）

宍戸委員

- ・ 昨年も申し上げたが、来年度末のビジョン（本冊）改訂時には、成果指標にアウ

トットだけでなくアウトカムの指標も入れてほしい。

福田統括政策監

- ・ 昨年のご指摘も踏まえ、次回ビジョン（本冊）改訂時に指標のあり方を見直す予定。その旨を資料 2-2 の 6 ページ下部に記載させていただいた。

中山委員

- ・ 宍戸委員と同様、各取組の目標値についてアウトプットが多いため、なかなか取組の効果が見えにくいように感じる。
- ・ 例えば北京事務所の活用については、中国版 twitter のウェイボ（新浪微博）での発信とあるが、発信の効果としてどれだけの反応があったのか、フォロワーが増加したのかなどの数字がないと評価が難しい。

小泉政策監

- ・ ご指摘も踏まえて、次回ビジョン改訂時に検討させていただく。

樋口委員

- ・ 新潟広域都市圏の目指すべき将来像である平成 52 年の目標人口 110 万人に向けては、圏域全体の経済成長のけん引が重要であり、人口を維持し増やしていくためには経済成長は欠かせない。
- ・ 経済に限って言うと（取組の）効果が数字で出しやすい。
- ・ NIIGATA SKY PROJECT の説明には、幅広い裾野を有する航空機産業を振興することにより、圏域内への高い経済波及効果を創出とあるが、経済波及効果の算出はいつ頃を目途に算出する予定か。

小泉政策監

- ・ 経済波及効果の算出をいつ頃行うかは把握していないが、事業課に確認の上、今後算出予定があれば、この場で報告していきたい。

樋口委員

- ・ 経済波及効果を出していくことは、プロジェクトや広域都市圏の取組を皆様に幅広く知ってもらうために大事だと思う。

山賀委員

- ・ 現在行っている公共交通ネットワーク等に関する調査研究の結果が、今後、都市圏ビジョンの次の改訂時に反映されるということだが、その際には、各連携事業の取組も掛け合わせて成果を図るのか。
- ・ 各連携事業は新潟市が中心となって実施していると思うが、連携市町村の資源等を活用することで相乗的に圏域全体の魅力が高まっていくと思う。連携市町村が主体的に行う事業はあるのか。

小泉政策監

- ・ 広域都市圏の取組は、新潟市と市町村の1対1の連携協約を10本束ねて出来ている事から、新潟市が中心市の役割として全体のハブになっている。
- ・ 連携市町村からは、毎年事業提案を受けており、実現可能なものについては今後も連携事業に位置付けていく。

福田統括政策監

- ・ 1点目の質問については、調査研究だけでなく既存の事業から見えてきたものもあるだろうから、それも反映していくべきではというご意見かと思う。
- ・ 公共交通ネットワークの確保については、資料2-1の4ページに掲載した阿賀町バスの取組がすでに動いている。この取組から見えてきたもの、調査研究から見えてきたデータを掛け合わせることで、来年度以降の取組につなげていきたい。
- ・ また、来年度から実施予定の婚活支援事業は、連携市町村から提案があった事業である。

北山委員

- ・ 広域観光周遊ルート形成の取組で、新たに多言語ガイドブックを作成したことは、圏域が出来たことによって、今までは新潟市のみを売り込んでいたものが、こういった広がりを見せて売り込みができるようになったということで、都市圏形成のメリットにつながっていると思う。
- ・ 特に外国人は新潟市のみならず周辺も観光すると思うが、都市圏形成のメリットを活かし、ガイドブック、ホームページ等を活用して、今後どのように売り込んでいこうと思っているのか。

小泉政策監

- ・ ガイドブックは25,000部（日、英、中（簡／繁）韓、各5,000部）作成ということで、数が限られているため、活用方法はオーソドックスだが、駅前の観光案内所等への設置や、新潟市内で開催された開港150周年関連イベントで配布している。
- ・ 紙媒体は数に限度があるため、今後は、今年度中に公開予定のホームページを活用して、新潟に関心を持っている層にしっかり広域観光周遊ルートの情報を届けていく。

福田統括政策監

- ・ ガイドブックについては、観光案内所での配布だけでなく、MICEでの活用にも力を入れていきたい。
- ・ 今年秋にはJRのデスティネーション・キャンペーンが始まるため、ホームページの活用戦略についても観光部局と検討していきたい。

北山委員

- ・ 広域都市圏の枠組みとして連携市町村と一緒に、海外の旅行社等へセールスは行っているのか。また、今後予定はあるのか。

小泉政策監

- ・ 現状は、まずは営業に必要なツールを共同作成・活用しようという段階であり、次の段階についてはこれからというところ。今後そういった取組を進めていけるよう事業課と調整していく。

横尾委員

- ・ 食材ブランド力強化の取組について、新潟県ということで米、酒が一番に来るが、それだけでは他県と比べても農業産出額が伸びない状況がある。
- ・ 圏域内には特色ある果樹、園芸などがあり、JA グループも新潟県と協調しながら園芸振興にも取り組む予定である。
- ・ 地域経済活性化のためにも、農家が高齢化しているなか、農業者の所得向上につながるよう取組を強化してほしい。
- ・ 観光についても、各市町村が持つ独自の魅力を、圏域としてまとめることで相乗効果を高めて売り込む取組を進めてほしい。

小泉政策監

- ・ 圏域で連携した農水畜産物のプロモーションについては、米、酒だけでなく、圏域内にある多くの商品価値の高い農畜産物も含め圏域としてプロモーションを図っていく。
- ・ 新潟市は、複数の企業と包括連携協定を締結しており、全国展開している企業の力を借りて新潟市の農水畜産物のプロモーションも行っている。こういった取組を圏域に拡大する方法も考えられる。あらゆるチャンスを活用していきたい。

山賀委員

- ・ 広域観光周遊ルート形成について、各市町村にいるボランティアガイドが、これまでの各市町村内での連携、交流だけでなく、他市町村と連携、交流を始め、去年からイザベラバードをテーマに新潟市や阿賀町等で取組が進んでいる。
- ・ こういった民間の圏域内連携の取組も活かせるよう協働してほしい。
- ・ 新潟広域都市圏は川湊でつながるという経緯があり、そのストーリー性を語ることが圏域をつないでいくことに有効と思うので意識してほしい。

小泉政策監

- ・ 大変良いご指摘をいただいたので、民間の力を活かせるよう観光部署と連携して取り組んでいきたい。

関谷委員

- ・ 子育て支援パスポートについて、去年の要望から一步前に進んだということで大変喜んでる。
- ・ 聖籠町、田上町と先行実施予定とあるが、他の市町村とはどうか。また市町村ごとに特典内容が異なると思うが、どのように調整しているか。

小泉政策監

- ・ 連携事業については、連携市町村からの参加意向、連携協議という流れを経て、パスポートについては聖籠町、田上町と連携することとなった。
- ・ 他市町村については、前向きに検討いただけるところ、そうでないところもある。背景には、自らの商圈が奪われることにつながるのではないかという懸念あるよう。
- ・ そういった状況も踏まえながら、合意できた市町村と連携を進めていきたい。

斎藤委員

- ・ 山賀委員と同様、圏域形成に至った経緯、ストーリー性の部分があり表には出ていないが、この話には興味を持つ人が多いと思う。ここを前面に出す形で取組を進めることは非常に大事だと思う。
- ・ 移住・定住促進について、東京圏で新潟への移住ニーズはどれくらいあるのか。圏域の売りとして、古い歴史があるストーリーの部分に住んでみたいという興味を引くツールになると思う。

小泉政策監

- ・ 新潟広域都市圏の取組を周知する際に、経緯、ストーリーについても触れてはいるが、市民には十分浸透はしていない。開港 150 周年のイベントに新潟広域都市圏形成の背景や取組状況をパネル展示するなど行ったが、今後も周知を図っていきたい。
- ・ 東京圏のニーズについては、東京圏で開催する説明会にはそれなりの人数の方が来ていると聞いている。ただ、相談を受けた方が移住しているかという数字は抑えきれていない。今後、どのように実績を示せるかは事業課と調整していく。

福田統括政策監

- ・ 東京では移住イベントが頻繁に開催されており、たくさんの来場者がいるが、その中で自治体同士の取り合いになっている。
- ・ 単独で出展すると出展料が割高で、認知度が低い自治体は人を呼ぶにも苦勞するが、新潟市と一緒に参加することで、人がたくさんブースに来てくれ、都会がある新潟市とセットで自然がある自分の町も紹介できるということで、参加した連携市町村からは大変喜ばれた。
- ・ エピソード的な説明で恐縮だが、圏域で PR するメリットは出てきていると思う。

議題（２）新潟広域都市圏ビジョン（別冊）の改訂について

小泉政策監

（【資料３－１、３－２、３－３】説明）

（意見・質問）

宍戸委員

- ・ 新規事業として加わる婚活支援推進事業について、成果指標のイメージがなかなか湧かない。婚活支援事業の効果をどうやって図るのかイメージだけでも教えてほしい。

小泉政策監

- ・ 現状では、イベント開催回数を想定している。
- ・ 成果指標をイベント参加者数、カップル成立数、婚姻につながった数などどういったものにできるかは今後検討していきたい。

斎藤委員

- ・ ビジョン（別冊）の参考資料として追加された都市機能の連携イメージが非常に分かりやすい。
- ・ 緑の矢印の下に沿っている鉄道をどうやって上手く使うのかということが連携のキーポイントになってくる。
- ・ 地方の駅を回ってみていると、周辺に住んでいる方々がなぜ隣の駅を使わないかということと自宅から駅までが遠いから。駅周辺にパークアンドライドのように駐車場が整備されていると、そういった方々もおそらく利用すると思う。
- ・ 現状、鉄道が引かれているが、おそらく上手く使えていない。ネットワーク構築の中でどう鉄道を使っていくかということがキーポイントになると思う。
- ・ 新潟広域都市圏は自家用車が無ければ生活できないというのは事実だが、駅に車を駐車することができれば、鉄道を有効活用できると思うので、そういった視点をどこかに載せてもらえれば。

福田統括政策監

- ・ 都市機能の連携イメージには４つ広域連携軸を設定しており、これは圏域の幹の部分となる。ここにいかにアクセスするかという点で、枝葉あるいは毛細血管の部分と組み合わせることが重要である。
- ・ 広域連携軸については圏域全体で支えることになる。例えば、阿賀町バスにしても阿賀町単独の財政負担では維持が難しいので、圏域のスキームを活用して財政措置が講じられている。
- ・ 一方、広域連携軸に至る毛細血管の部分は、各市町村でしっかり構築してもらおう。こういった連携イメージを基に役割分担をしっかりと整理し、圏域内で交通空白地の発生をなるべく抑制していきたい。

関谷委員

- ・ 婚活支援推進事業は連携市町村からの要望で始めるということだが、人口減少対策にとって非常に大事な取組だと思うので、是非こういった事業を多くしてほしい。
- ・ 来年度の改訂に対する要望として、総務省の連携中枢都市圏構想推進要綱の中で連携する取組例として、福祉分野では子育て家庭のニーズに応じた保育所の広域入所その他の在宅療養・子育て支援のネットワークの構築が記載されている。私の職場でも周辺市町村から来ている方の子育て時の保育所に困っている方がいる。広域入所が出来れば望ましく、人口減少対策にもつながると思う。
- ・ 他の圏域ではビジョンに入っている例もある。難しいことは重々承知しているが、次の改訂時には是非検討してもらいたい。

小泉政策監

- ・ 広域入所が実現できれば子育てニーズに対応した取組になると思うが、これまで保育サービスは各市町村が担う部分（保育料の独自軽減等）に差があり、自治体を超えてということが難しかった。
- ・ 今、国が幼児教育・保育無償化を進めており、国が共通して面倒をみる部分が増えるので、これまでよりは若干ではあるがハードルは下がるのではないか。
- ・ 事業課と意見交換しながら、そういった方向性が可能なのか探っていきたい。

○ その他

圏域マネジメント制度の法制化に向けた動きについて

福田統括政策監

（【参考資料】説明）

- ・ 質問等なし

○ 閉会